



小林市立  
幸ヶ丘小

# こすもす

学校だより  
令和2年度第3号

R2. 5. 29発行

ホームページ=<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1410/htdocs/>

文責：阿南 栄三

4月21日からの臨時休校が延長となり、登校日以外、登校できない状態が続きました。登校日から授業・給食ありの登校日、そして、今週からようやく学校再開となりました。子どもたちのいる学校が本来の姿なんだなあ〜・・・と改めてそう思ったところでした。

臨時休校のためにこれまでに計画していた学校行事、ALT、国際交流等が中止になってしまい、子どもたちは寂しい思いをしてきたことでしょう。学校再開は子どもたちにとっても私たち職員にとっても嬉しいことです。まだまだ予断を許さない状況ですが、学習・生活ともに充実した学校生活を送ることができるよう職員一同、力を合わせて頑張りますので、これからもよろしくお願い致します。

**【学校再開後の幸っ子の様子】** ※ホームページも是非ご覧ください。

【サツマイモの苗植え：5月26日】

【ALT来校：5月28日】



【太鼓練習：5月29日】



【百葉箱ができました】

【生活科の授業】



## 6月の主な行事予定

- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| 1日(月)：振替休業日(31日分) | 3、10、17、24日(水)、30日(火)：ALT来校 |
| 3日(水)：内科検診        | 5日(金)：全校朝会、避難訓練(風水害)        |
| 8日(月)：1年生を迎える会    | 10日(水)：心電図検査(1年生)           |
| 12日(金)：太鼓練習(26日も) | 18日(木)：西小林小との交流(5・6年生)      |
| 28日(日)：参観日        | 29日(月)：振替休業日(28日分)          |

## 保護者・地域のみなさま

新型コロナウイルスの影響で3月から臨時休校が始まり、4月に再開するも再び臨時休校となりました。ようやく緊急事態宣言も解除され、新しい場面へと進んでいます。この間、保護者の皆様にはご家庭でのお子様の健康管理や生活習慣の維持、そして家庭学習の充実に関して、たくさん支えていただきました。また、地域の方々にも子どもたちの見守り等をしていただきました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「日本講演新聞」～「オリンピック…ごめんね…」～（2016年の記事より）

先日、実家に帰ったとき、昔使っていた部屋を片づけました。壁のビートルズのポスターはかなり色あせていました。片づけの途中、高校生のときに買った『人間交差点』というマンガを見つけました。とても泥臭い人間模様が描かれた作品で、原作は矢島正雄氏、作画は弘兼憲史氏です。その中の「あの日、川を渡って」という話を久々に読んでみました。当時感動して何度も読み返した話でしたが、いくつになっても良い話は涙腺がゆるみます。

\* \* \* \* \*

主人公は片田という若い刑事です。ある日、片田は母が危篤との連絡を受け、徹夜の張り込み捜査を終え始発電車で実家に急ぎます。「お母さん、帰るまで待っていてください」と、片田は心の中で祈りました。父の死後、女手一つで片田を育てた母。生活は貧しくても、明るい笑顔を絶やしませんでした。そんな母が一度だけ悲しい顔をしたことがありました。

片田がまだ幼かったある日のこと。「東京オリンピックの入場券が安く手に入った」と、母が興奮気味に帰ってきました。“母はオリンピックが見られることを喜んでいるのではなく、僕に見せてやれることを喜んでいるのだ”と、片田は幼いながらも分かっていました。

当日、貧しい2人は精一杯のおしゃれをして出かけました。父が死んで初めて電車に乗って川を渡り、東京に行きました。しかし…、会場には入れませんでした。母が手に入れた入場券は二セモノだったのです。帰りの電車では、母はずっと無言でした。肩を落とし、無力な自分を責めるような母の姿を見て、片田は母の手を握りしめてこう言いました。「今日はとても楽しかったよ。うそじゃない。僕は本当に楽しかった」でも、母はいつものように笑いません。「母さん、お前に何もしてやれなくて…」と、涙を浮かべて片田の手を握り返します。

二セの入場券は2人にとってあまりにも重い罪でした。片田が子ども心に「将来は刑事になろう」と思ったのはその時でした。

片田はなんとか臨終に間に合いました。息を引き取る前に、一度だけ母は意識を取り戻します。そして片田の手を握り、はっきりとこう言ったのです。

「オリンピック…ごめんね…」片田は、「楽しいオリンピックでしたよ」と言いたかったのですが、涙で言葉になりません。母の手を握り返し、心の中で「ありがとう」と何度もくり返しました。母はそのままそっと息を引き取りました。そんなお話です。

\* \* \* \* \*

昭和は遠くなり、2020年にまた東京でオリンピックが開催されます。世界中の人に「楽しいオリンピックでした」と言われるイベントになることを期待します。

新型コロナウイルスの影響でオリンピックが延期になりました。高校球児にとっては一番の大会である甲子園大会も春に続いて夏も中止になりました。インターハイ、コンクール、中体連大会も……。これらの決定によって多くの若者が涙しました。しかし、そんな中でも前向きに頑張ろうとする若者の姿が、また、若者を支えよう、応援しようとする人々の姿もありました。

一生に一度あるかないかという事態に多くの人が悩み、苦しんでいます。少しでもそんな人たちに想いを馳せ、自分の今できることを精一杯やるのが大事なのではないかと思います。